

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	選択
担当教員			
田岡 昌大			
木5			
添付ファイル			

科目の概要	<p>教育は誰にとっても日常的で身近なものである。しかし、自分の教育の経験はあくまで自分だけのものに過ぎない。それゆえ、自分が当然だと思っていることでも、他では当然ではないこともありうる。また、「なぜそうなのか？」や「それは何を意味するのか？」ということ問われた時、答えに窮してしまうこともあるだろう。このように、日常的な感覚は、もっともらしいものに見えて、実際には自分の価値観や経験に囚われた狭いものの見方に過ぎないこともある。したがって、教育について考える時には、自分自身の経験を軸にしつつも、そこから離れて広く、深い思考を必要とする。少なくとも、それが無ければ、いつまでも自分の経験の中で考え続けることになる。</p> <p>本講義は、このように経験を離れて教育について自律的に考えるための基礎を確立することを目指すものである。</p> <p>ただし、ここでいう「基礎」とは、単に教育（教育学）に関わる知のみを意味しない。教育は、人間形成に関わるゆえに様々な領域と隣接する。それゆえ、この「基礎的な知見」は、例えば人間発達や社会全般との関わりの中で意味を持つ。したがって、講義では教育や教育学だけでなく、それと関わる様々な内容を扱う。また、現在の事柄だけでなく、歴史的・思想的な背景も扱う。これによって、「教育」について多角的に考える基礎を培うことを目指す。</p> <p>なお、本講義は栄養教諭養成課程に関わる講義であるため、上記の内容を踏まえつつ、「食／食育」についても応用的に取り扱う。</p>
授業の内容	<p>第1回 インTRODakション／教育の身近さと難しさについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教育原理」を学ぶ意義を学ぶ。 ・教育が身近なものであると共に、経験を超越して考えることがなぜ大事なのかについて。 ・シラバスを事前に読み、本講義の目的や内容について把握しておくこと。 ・「なぜ教育は必要なのか？」という問いについて、自分なりに考えておくこと。 <p>第2回 教育と教育学について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育について自分の経験のみで考えることの問題性について。特に、その暴力性について。 ・教育と関わる事柄・学問領域について。 ・人間と社会にとって教育がどのような意味で必要かについて。 ・教育学の守備範囲と教育学を学ぶ意義について。 <p>第3回 野生児について／教育－食育の必要性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野生児（アマラとカマラ）の事例と、そこから理解できる教育の必要性について。 ・「アマラとカマラ」について、事前に調べておくこと。 ・他の講義で学んでいる場合は、どのような内容であったかを復習しておくこと。 ・食育がなぜ必要と言えるのかについて、考えておくこと。 <p>第4回 教育と教育の目的①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回までの話を踏まえて、教育の目的について。 ・日本国憲法と教育基本法の関係について。 ・教育と社会の関係を考えることによって、教育の必要性を社会の観点から考える。 ・日本国憲法で学んだ内容を復習しておくこと。 ・教育は何を目的とすべきかを考えたり、調べたりしておくこと。 <p>第5回 教育と教育の目的②／食育の目的について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育目的と、その実現のために要請される教育の内容について ・現代において求められる教育目的・内容・方法について ・「生きる力」「資質能力」など、近年の学習指導要領や幼稚園教育要領などで用いられる表現について意味を調べておくこと。 ・以上の内容を応用しながら「食育」の目的について批判的に検討する。 <p>第6回 学校の成り立ちと展開①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近代における学校教育制度の成立と展開、歴史的過程、基本的特徴などについて ・学校教育制度がなぜ求められるのかについて ・モントリアルシステムについて。また、それを通して、近代の学校の基本的な構造について。 ・特に歴史（近代以降）の内容が中心になるため、その点について予備的に復習をしておくこと。また、他の講義で同様の内容を学んだ場合は、その内容も復習しておくこと。 <p>第7回 学校の成り立ちと展開②／給食について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本における学校教育制度の誕生と展開について ・戦後日本における学校教育制度の転換と展開について ・現代の学校を巡る状況について ・特に近現代日本史の内容になるため、その点について予備的に復習しておくこと。 ・以上の内容を応用しながら「給食」の意義について。 <p>第8回 教育と発達①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育と発達を関連付けて理解する意義を学ぶと共に、基本的な考え方を学ぶ。 ・心理学等の他の講義で学んだ内容に再び触れることが多くあることが予想される。 ・受講に際してはこれらの内容に関する復習をしておくこと。 ・特にピアジェとヴィゴツキーの学説については復習しておくこと。 <p>第9回 教育と発達②／「食べる」と科学について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回に引き続いて、教育と発達の関係について ・「発達」に基づいて考えることの批判的検討

	<p>第10回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以上の内容を応用しながら「食べる」ということについて。 <p>教育思想史①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの講義内容を振り返って中間的な総括を行う。 ・これまでの内容を基礎づける教育思想を学ぶ。 以後、教育思想史上の重要な人物を順次紹介していく。 ・この回ではコメニウスの教育思想について。 <p>第11回</p> <p>教育思想史②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルソーの教育思想について学ぶ。 ・ルソーについては、高校でも学んでいるはずである。 高校では、どのようにルソーについて学んだかを振り返って復習しておくこと。 <p>第12回</p> <p>教育思想史③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペスタロッチとフレーベルの教育思想について学ぶ。 ・ペスタロッチとフレーベルについては、他の講義でも学んでいるだろう。 学んでいる場合は、復習をしておくこと。学んでいない場合は、自身で調べておくこと。 <p>第13回</p> <p>教育思想史④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘルバルトとデューイの教育思想について学ぶ。 ・ヘルバルトとデューイの教育思想について、他の講義で学んでいない場合は、自身で調べておくこと。 <p>第14回</p> <p>教育と食／食育の接点を探る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここまでの内容を踏まえながら、「食／食育」の接点について検討する。 ・受講者は、今までの内容を踏まえつつ、自分たちなりに本講義の観点で「食／食育」について事前に考えをまとめておくこと。 <p>第15回</p> <p>まとめ</p> <p>15回の内容を振り返ると共に、改めて教育原理を学ぶ意味を考える。</p>
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育および教育学についての基礎的な知識、思考法を獲得する。 2. 自身の教育観・子ども観・社会観を豊かにし、表現する。 3. 講義にて得た知見を用いて、応用的に思考し、表現する。 4. 講義にて得た知見を用いて、食育について思考し、表現する。
授業の方法	<p>【授業形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義形式 <p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回講義に関するリアクションペーパーへの記入を課す。 その内容は次回の講義にて紹介すると共に、レスポンスを行う。 <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>【その他特記事項】</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>【割合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート（60%） ・小テスト、授業内課題など（40%）
教科書・テキスト	特に指定しない
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・今井康雄編（2009）『教育思想史』有斐閣 ・眞壁宏幹編（2016）『西洋教育思想史』慶應義塾大学出版 ・古屋恵太（2017）『教師のための教育学シリーズ2 教育の哲学・歴史』学文社 <p>この他、授業内容に関わる参考書については、リストを授業内にて配布する。</p>
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り平易に講義を行うが、ただ「聴く」だけでは内容を完全に理解することは難しいです。 また、本講義はいわゆる暗記を求めるものではなく、内容を理解し、それについて考え、論じることが求められる。したがって、講義内容を自身の学修で補うことが望ましい。 ・授業で扱う内容を応用して食育について考えるなどして欲しい。そのために求められる知見や参考書などは授業内にて適宜指示する。
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・講義形式だが、講義内容に関わる発言には可能な範囲で応じたいと考えています。積極的に発言ください。 ・ただし、私語を含めて、周囲の人の迷惑になる行動は慎んでください。 （どの範囲を「周囲の人」と認識し、何をもって「迷惑」と考えるかについては、初回の講義で説明します。）
オフィスアワー	・講義内にて指示する。
課題に対するフィードバックの方法	・リアクション・ペーパーについては、次回講義にてレスポンスを行う。
実務経験	特になし
その他	